



戦略的イノベーション創造プログラム
Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program

日本発の科学技術イノベーションが未来を拓く

戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)とは

SIPとは、内閣府総合科学技術・イノベーション会議が司令塔機能を発揮して、府省の枠や旧来の分野を超えたマネジメントにより、科学技術イノベーション実現のために創設した国家プロジェクトである。国民にとって真に必要な社会的課題や、日本経済再生に寄与できるような世界を先導する課題に取り組む。平成26年度から平成30年度までの5年間を第1期として11課題（「重要インフラ等におけるサイバーセキュリティの確保」のみ平成27年度から令和元年度まで）に取り組み、平成30年度からは第2期として12課題を推進している。各課題を強力にリードするプログラムディレクター（PD）を中心に産学官連携を図り、基礎研究から実用化・事業化、すなわち出口までを見据えて一貫通貫で研究開発を推進している。

創設の背景

日本の経済再生と持続的経済成長を実現するには、科学技術イノベーションが不可欠である。総合科学技術・イノベーション会議では、内閣総理大臣、科学技術政策担当大臣のリーダーシップの下、我が国全体の科学技術を俯瞰する立場から、総合的・基本的な科学技術・イノベーション政策の企画立案および総

合調整を進めてきた。そうした中、自らの司令塔機能を強化する目的で打ち出された施策のひとつが「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)」である。現在、「官民研究開発投資拡大プログラム(PRISM)」「ムーンショット型研究開発」と共に統合イノベーション戦略において戦略的な研究開発として推進されている。

総合科学技術・イノベーション会議の司令塔機能を発揮した戦略的研究開発の推進

1



総合科学技術・イノベーション会議が府省・分野の枠を超えて自ら予算配分して、基礎研究から出口（実用化・事業化）までを見据えた取組を推進。

SIPの特徴

- ▶ 社会的に不可欠で、日本の経済・産業競争力にとって重要な課題を総合科学技術・イノベーション会議が選定。
- ▶ 府省連携による分野横断的な取り組みを産学官連携で推進。
- ▶ 基礎研究から実用化・事業化までを見据えて一貫通貫で研究開発を推進。
- ▶ 企業が研究成果を戦略的に活用しやすい知財システム。
- ▶ 国際標準・知財戦略、ベンチャー支援等の制度改革。

2



平成30年度に創設。高い民間研究開発投資誘発効果が見込まれる「研究開発投資ターゲット領域」に各省庁の研究開発施策を誘導し、官民の研究開発投資の拡大、財政支出の効率化等を目指す。

3



我が国発の破壊的イノベーションの創出を目指し、従来技術の延長にない、より大胆な発想に基づく挑戦的な研究開発（ムーンショット）を推進。野心的な目標設定の下、世界中から英知を結集し、失敗も許容しながら革新的な研究成果を発掘・育成。